

都リハビリテーション病院の経営状況

<目次>

1 財務状況

- 1-1 収支状況
- 1-2 総収支比率、医業収支比率の推移

2 主要経営指標

- 2-1 患者1人1日当たり入院単価（病棟別）
- 2-2 患者1人1日当たり外来単価（診療科別）
- 2-3 職員/医師1人1日当たり診療収入
- 2-4 1日平均入院入院患者数/外来患者数
- 2-5 病棟別延入院患者数、診療科別外来患者数
- 2-6 患者1人当たりリハ提供単位数（病棟別）
- 2-7 平均在院日数、病床利用率（病棟別）
- 2-8 疾患分類別患者数、年齢別患者取扱数
- 2-9 手術件数、在宅復帰率
- 2-10 患者満足度
- 2-11 職員定数

3 ベンチマーク分析

- 3-1 ベンチマーク分析の概要
- 3-2 100床当たり他施設との比較（令和4年度）
- 3-3 患者1人当たりリハ提供単位数の比較（職種別）①
- 3-4 患者1人当たりリハ提供単位数の比較（職種別）②
- 3-5 患者1人当たりリハ提供単位数（疾患別）①
- 3-6 患者1人当たりリハ提供単位数（疾患別）②
- 3-7 入院患者のF I M利得の比較

4 外部環境分析

- 4-1 都内のリハビリテーション病床の状況
- 4-2 疾患別受療人数/受療割合の将来予測（都全体）
- 4-3 疾患別受療人数/受療割合の将来予測（区東部）
- 4-4 リハビリテーション病床の必要数（推計）

- 1 財務状況
- 2 主要経営指標
- 3 ベンチマーク分析
- 4 外部環境分析

1 - 1 収支状況

- ・ 医業収支は、令和2年度に新型コロナの影響を受けて医業収益が減少するに伴い悪化した。
- ・ 令和5年度に医業収支及び総収支は改善したものの、収支赤字が継続している。

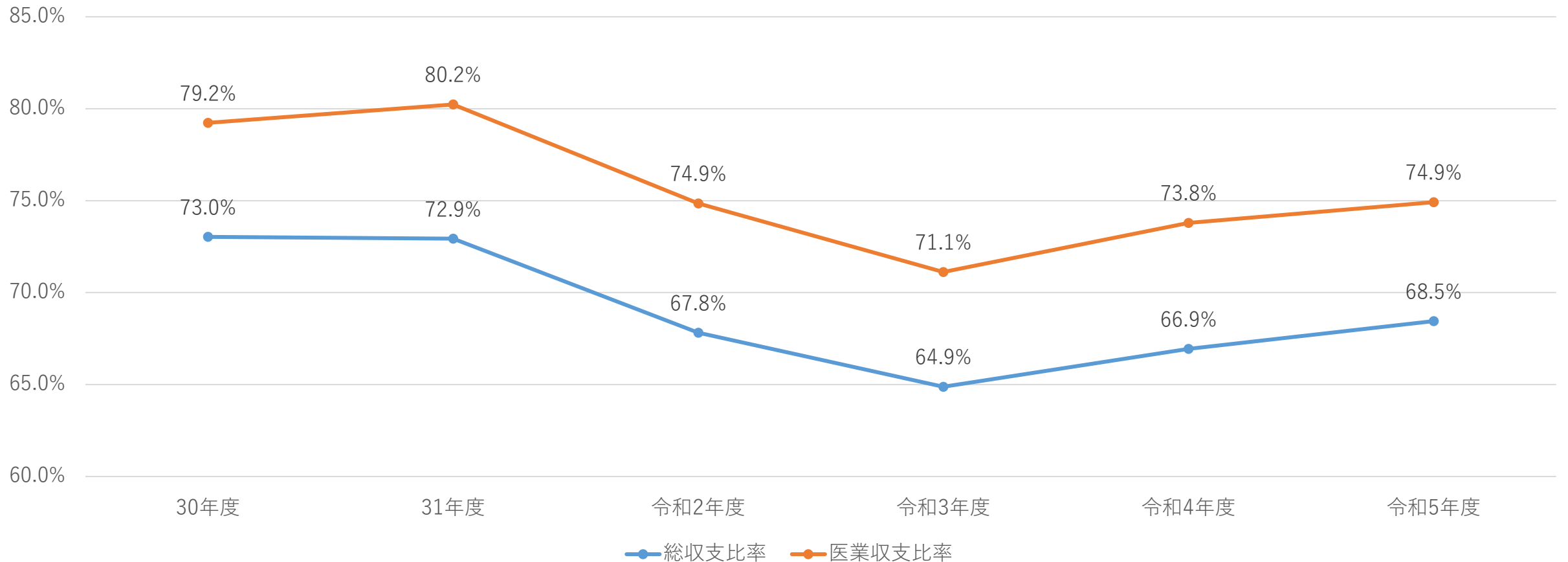
(千円)

区 分		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総	収 益 (A)	2,297,707	2,372,663	2,196,589	2,135,780	2,142,167	2,264,217
	医 業 収 益 (B)	2,281,119	2,356,927	2,183,237	2,107,072	2,123,980	2,247,353
	入 院 収 益	2,082,016	2,145,966	2,033,911	1,969,475	1,993,561	2,104,072
	外 来 収 益	159,690	173,617	110,831	99,837	95,664	104,468
	そ の 他 の 収 益	39,413	37,344	38,495	37,760	34,755	38,813
	医 業 外 収 益	16,588	15,736	13,352	28,708	18,187	16,864
総	費 用 (C)	3,146,082	3,253,222	3,238,769	3,291,997	3,200,141	3,307,805
	医 業 費 用 (D)	2,879,217	2,937,629	2,916,755	2,962,620	2,878,513	2,999,516
	職 員 費	1,760,600	1,772,482	1,745,516	1,731,291	1,706,456	1,738,260
	材 料 費	177,037	195,756	185,356	157,754	166,431	173,310
	管理及び事業費	913,731	946,134	969,254	1,048,699	971,385	1,065,666
	研 修 研 究 費	19,783	19,582	13,061	14,337	13,885	14,850
	備 品 費	8,066	3,675	3,568	10,539	20,356	7,430
	災 害 対 策 費	2,422	733	1,058	961	666	10,496
	消 費 税	264,443	314,860	320,956	328,416	320,962	297,793
総	収 支 (A-C)	△848,375	△880,559	△1,042,180	△1,156,217	△1,057,974	△1,043,588
医	業 収 支 (B-D)	△598,098	△580,702	△733,518	△855,548	△754,533	△752,163

1－2 総収支比率、医業収支比率の推移

- 総収支比率、医業収支費比率ともに令和2年度から低下傾向であったが、回復基調にある。

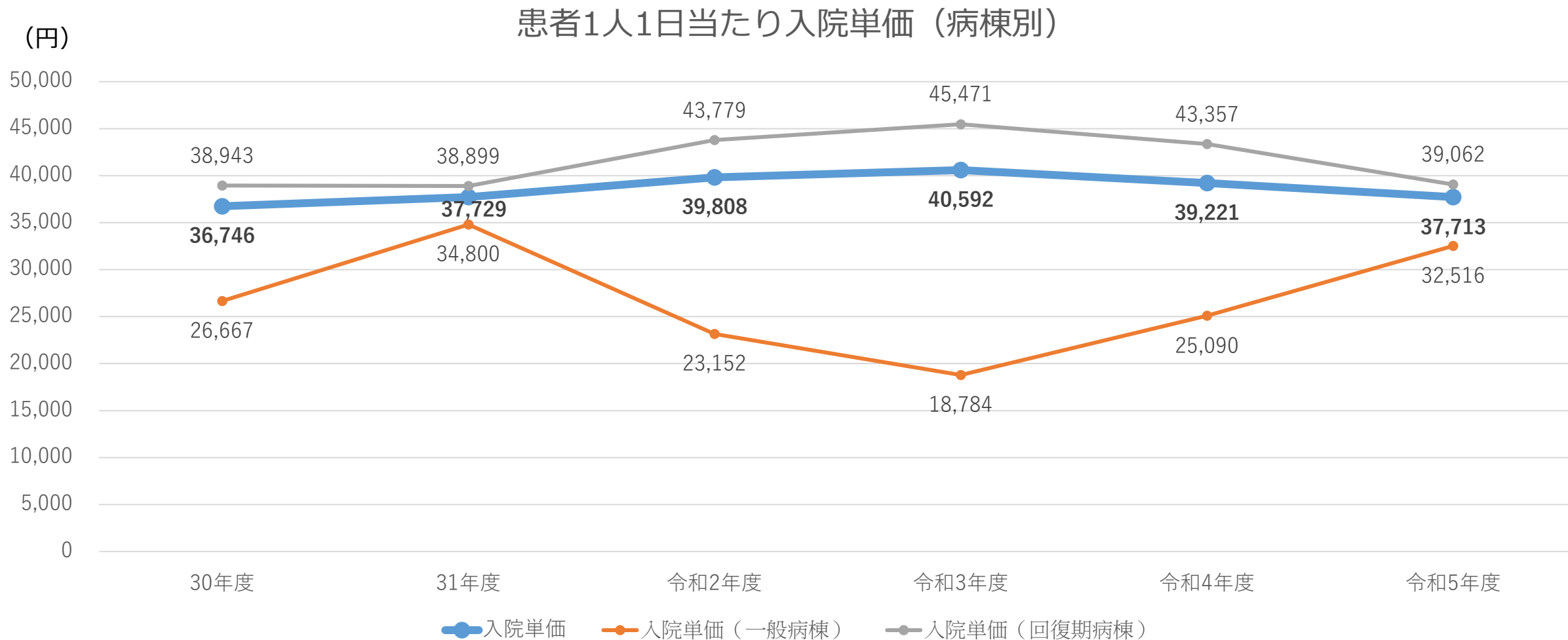
総収支比率及び医業支比率の推移



- 1 財務状況
- 2 主要経営指標
- 3 ベンチマーク分析
- 4 外部環境分析

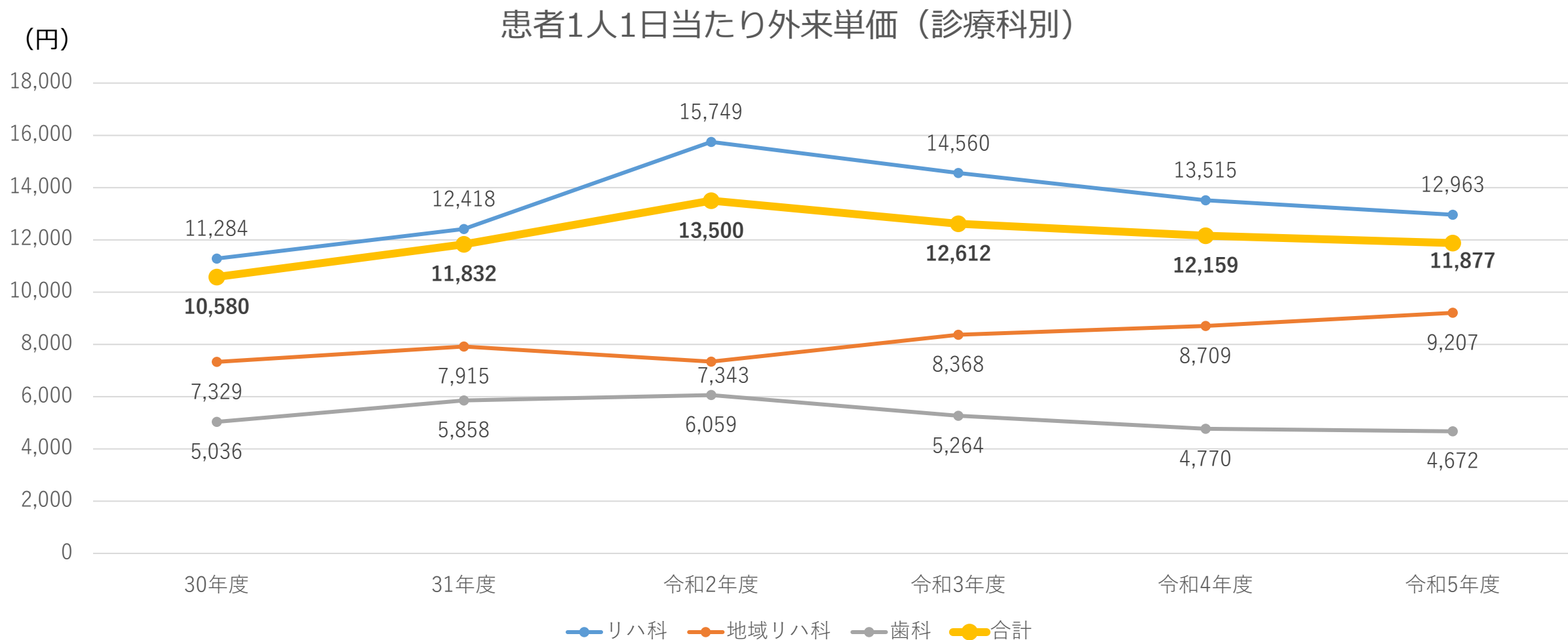
2-1 患者1人1日当たり入院単価（病棟別）

- 回復期病棟の入院単価は新型コロナウイルス感染拡大期に、減少した入院患者に対して手厚いリハを提供した結果上昇したが、患者数の回復とともに緩やかな下降傾向を示している。



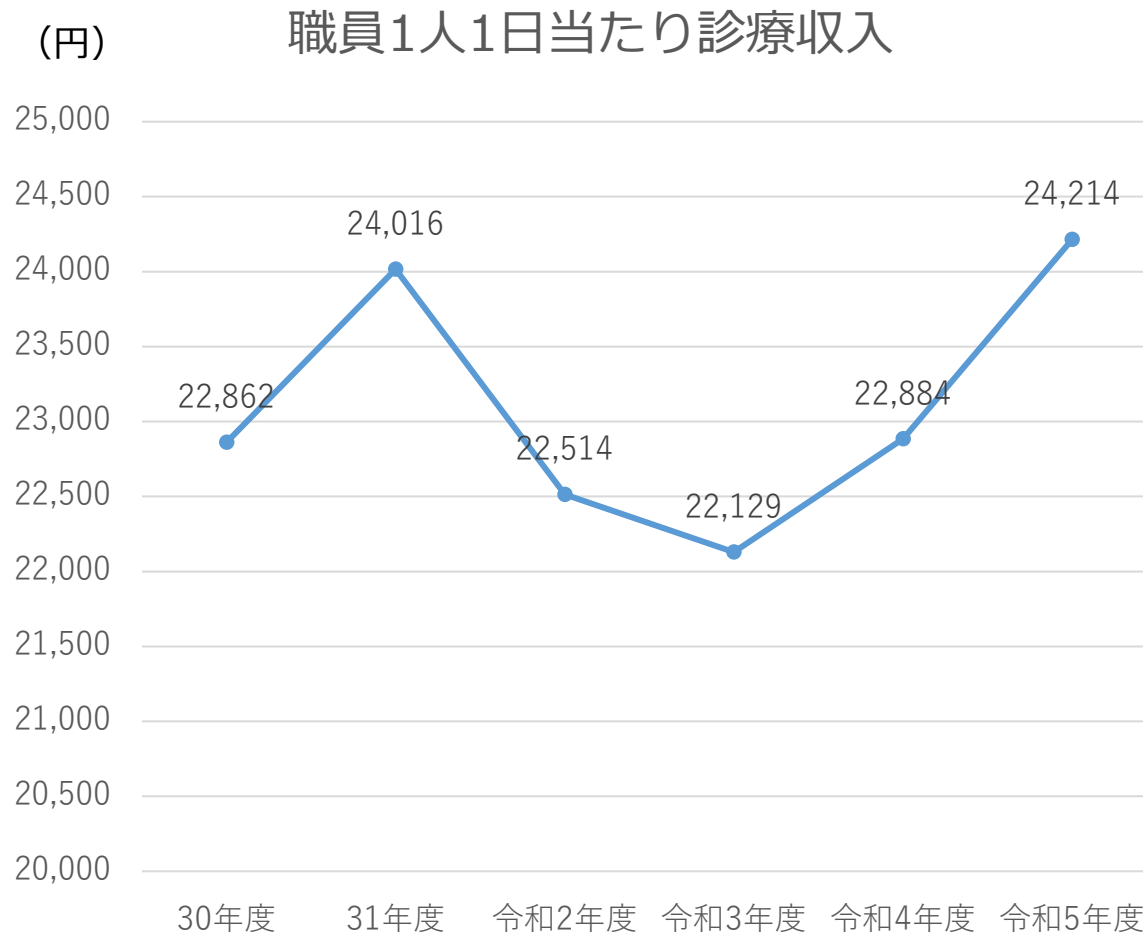
2-2 患者1人1日当たり外来単価(診療科別)

- 令和2年度をピークにリハ科と歯科の単価が下降傾向にある一方、地域リハ科の単価は上昇傾向となっている。その結果、病院全体としてはほぼ横ばいで推移している。



2-3 職員/医師1人1日当たり診療収入

- 職員1人1日当たり医業収入は令和4年度増加に転じている。

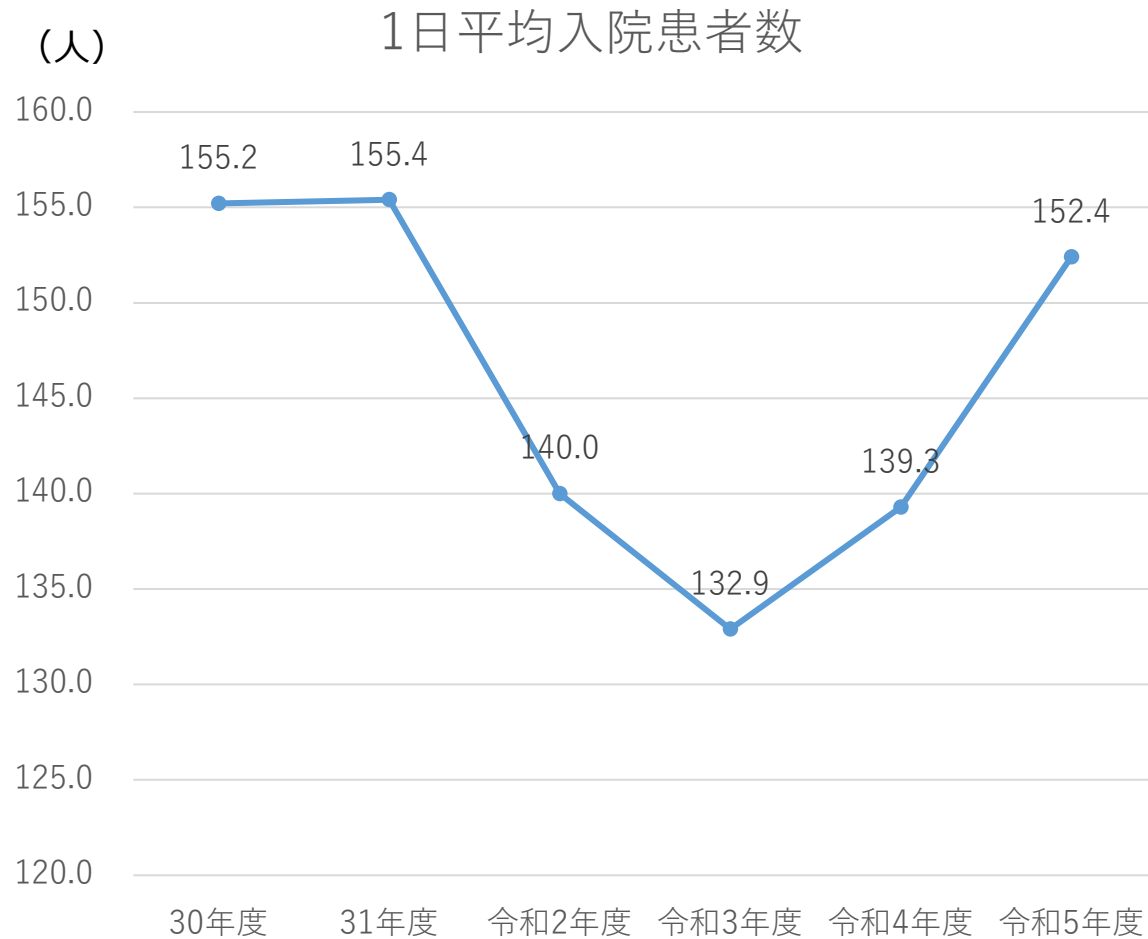


- 医師1人1日当たり医業収入は32万円前後で推移している。

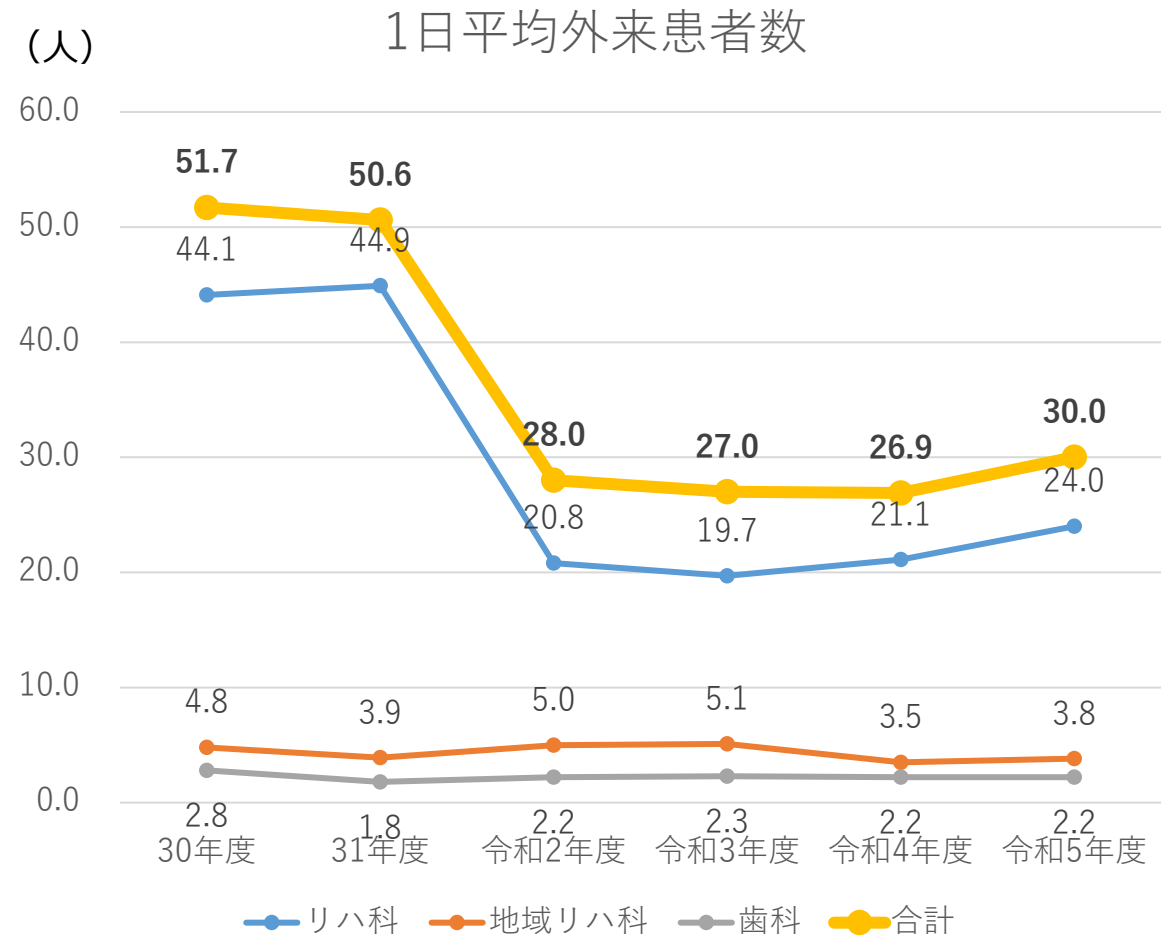


2-4 1日平均入院入院患者数/外来患者数

- 1日平均入院患者数は令和4年度以降回復傾向にある。



- 平均外来患者数は令和2年度に減少したのち、横ばいで推移している。



2-5 病棟別入院患者数/診療科別外来患者数

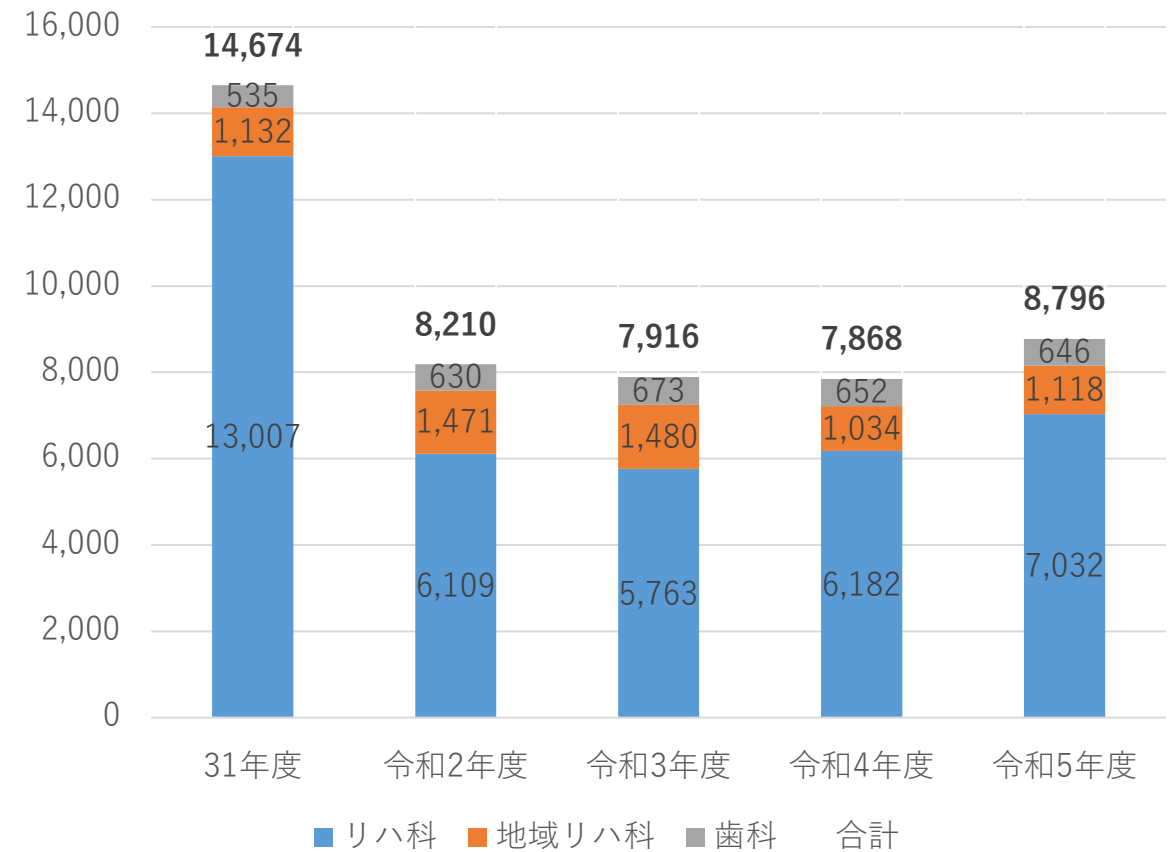
- 回復期病棟の入院患者数は、令和4年度以降増加傾向にある。

- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年度に大幅に減少して以降、横ばいで推移

病棟別延入院患者数



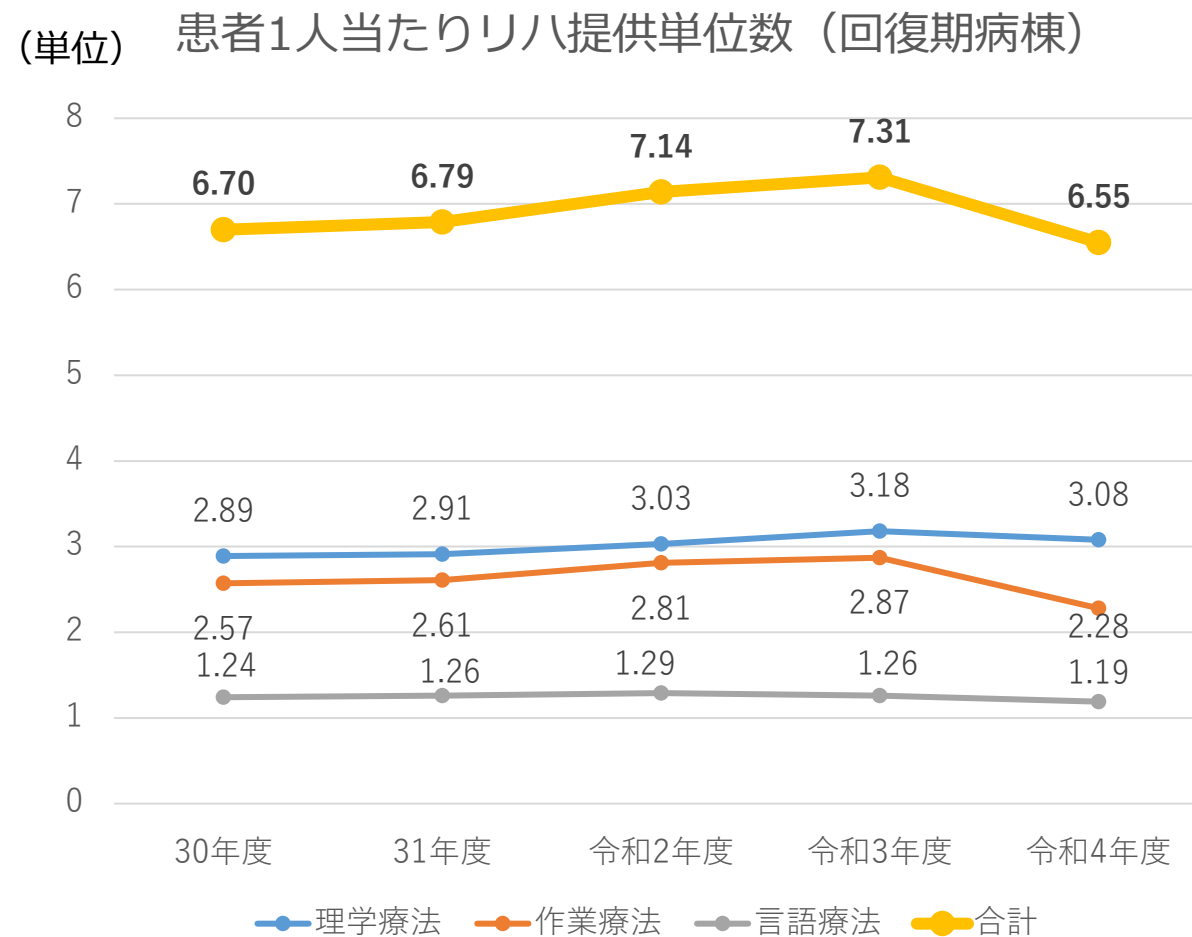
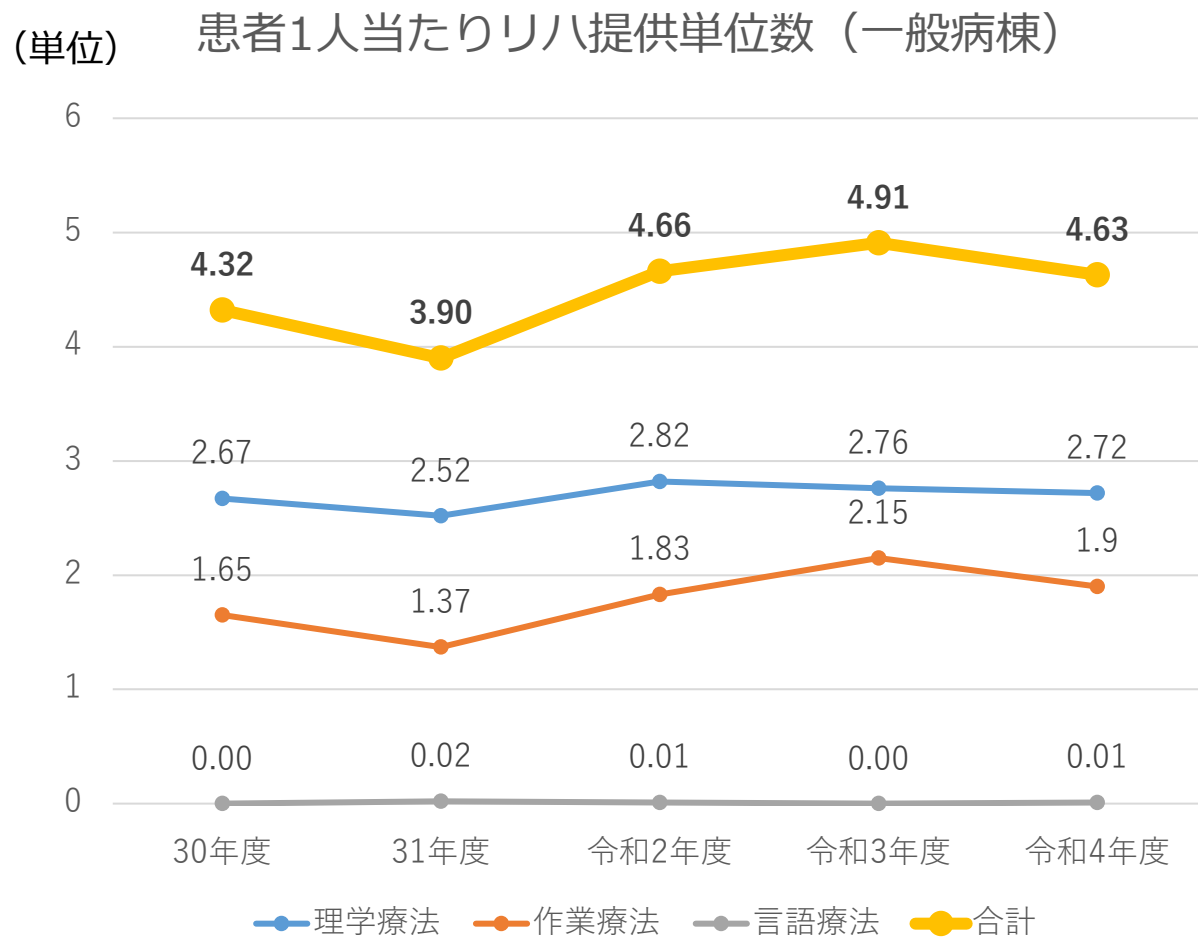
(人) 診療科別外来患者数



2-6 患者1人当たりリハ提供単位数（病棟別）

- 一般病棟は、令和4年度に作業療法士が減少したことに伴いリハ提供単位数も減少している。

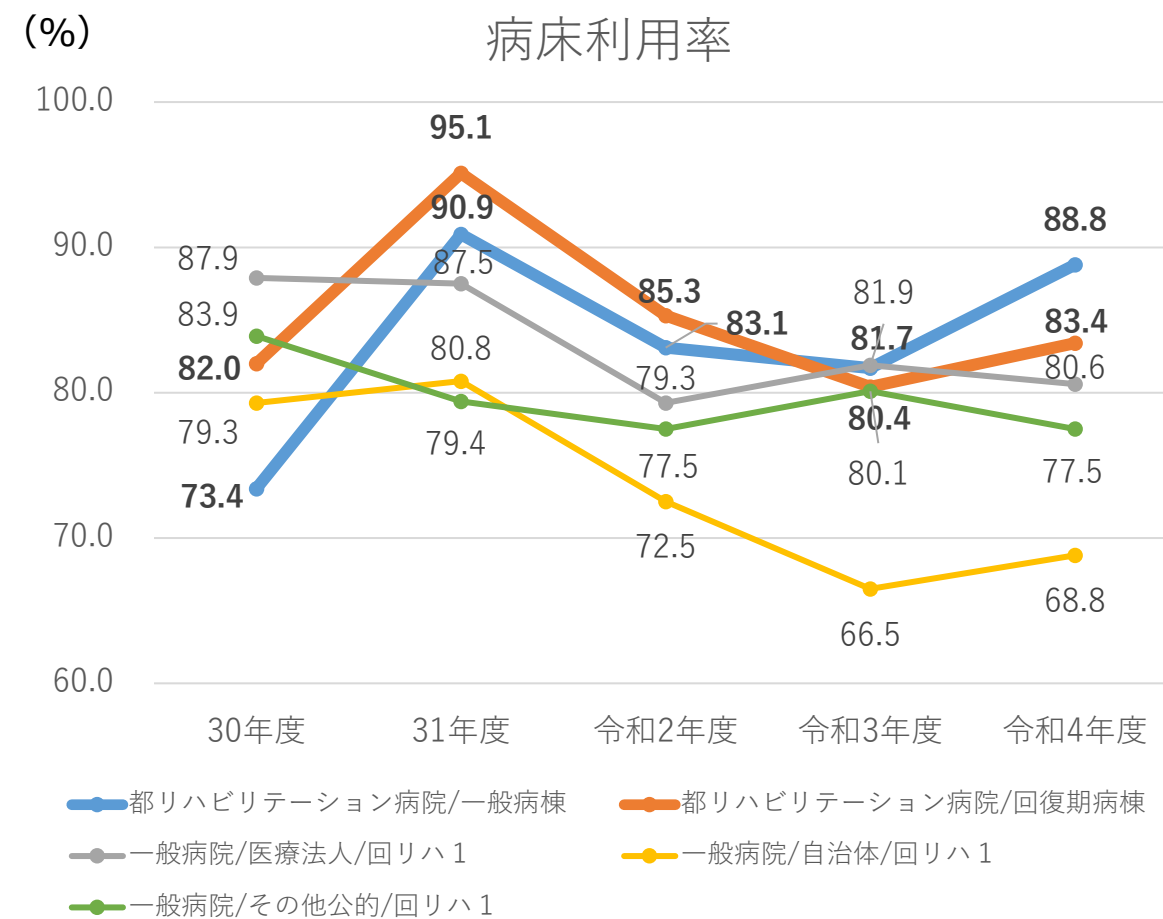
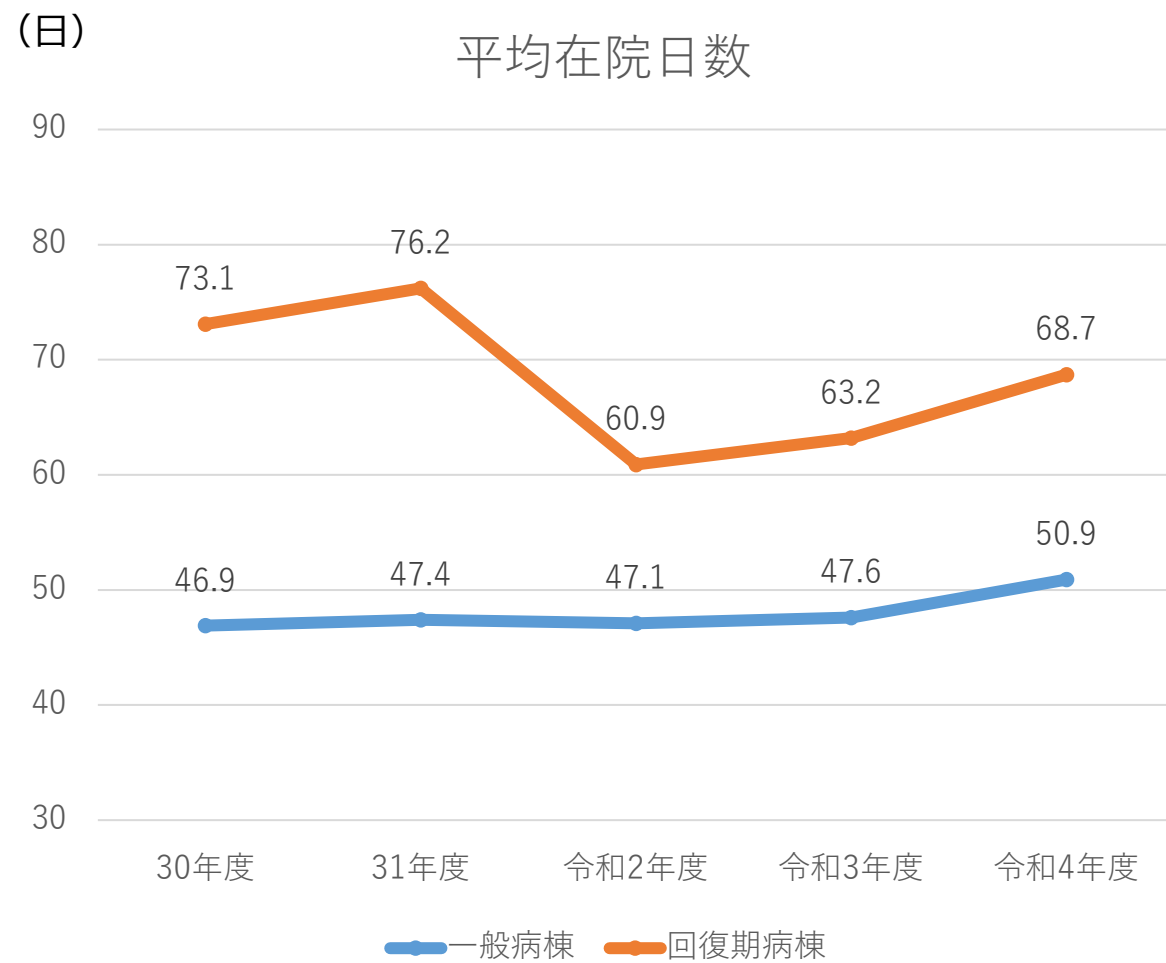
- 回復期病棟は、令和4年度に作業療法士が減少したことに伴いリハ提供単位数も減少している。



2-7 平均在院日数、病床利用率（病棟別）

- 回復期病棟は令和2年度に60.9日と前年度より15.3日も短くなったが、その後回復傾向にある。

- 病床利用率は、一般病棟、回復期病棟ともに31年度をピークに落ち込んだが、その後回復傾向にある。

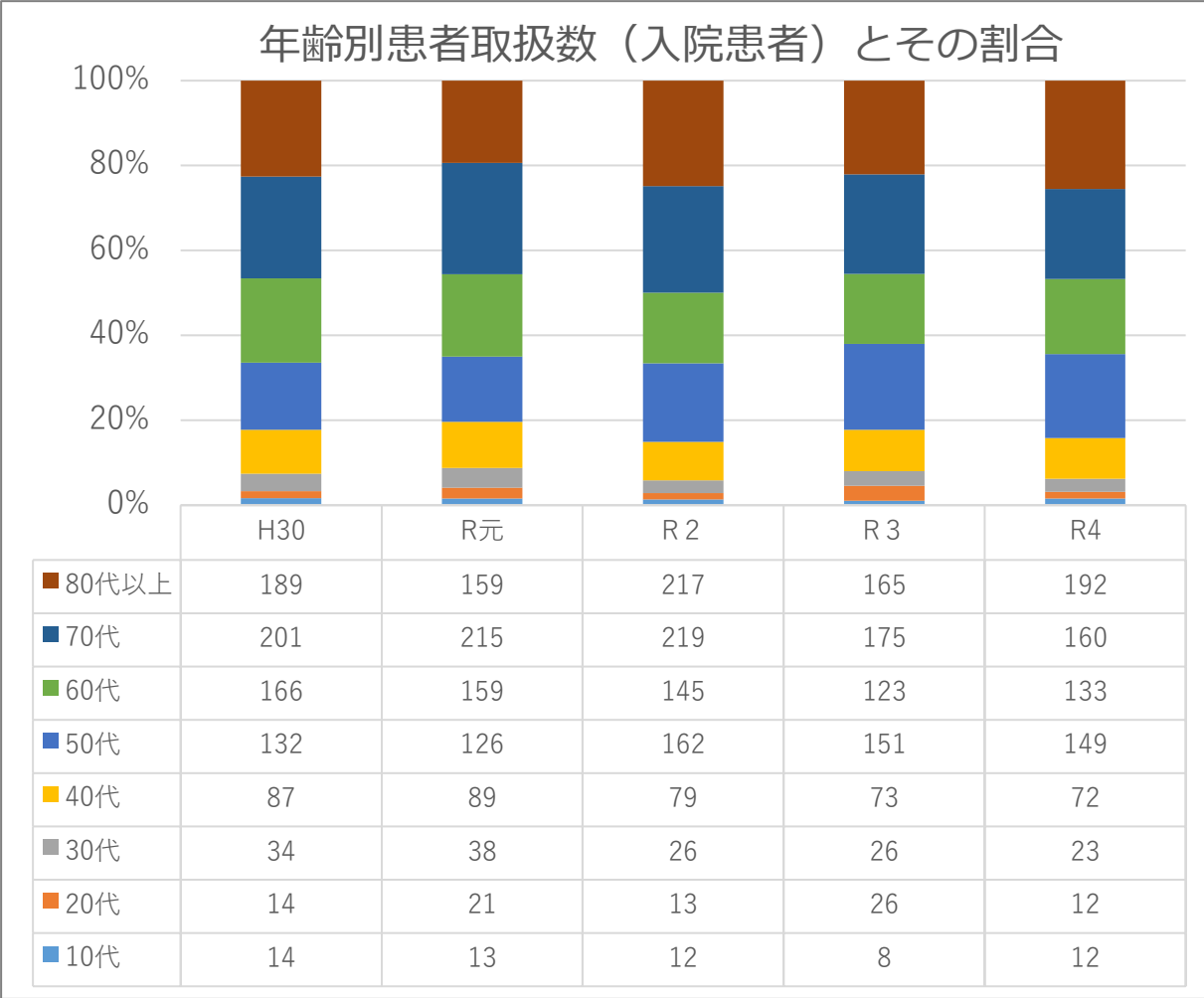


2-8 疾患分類別患者数、年齢別患者取扱数

- 脳疾患が約6割、整形外科疾患が3割弱で推移している。
- 年齢別患者数は、60代以上が3分の2、20歳から50歳の働き盛り世代が3分の1となっている。

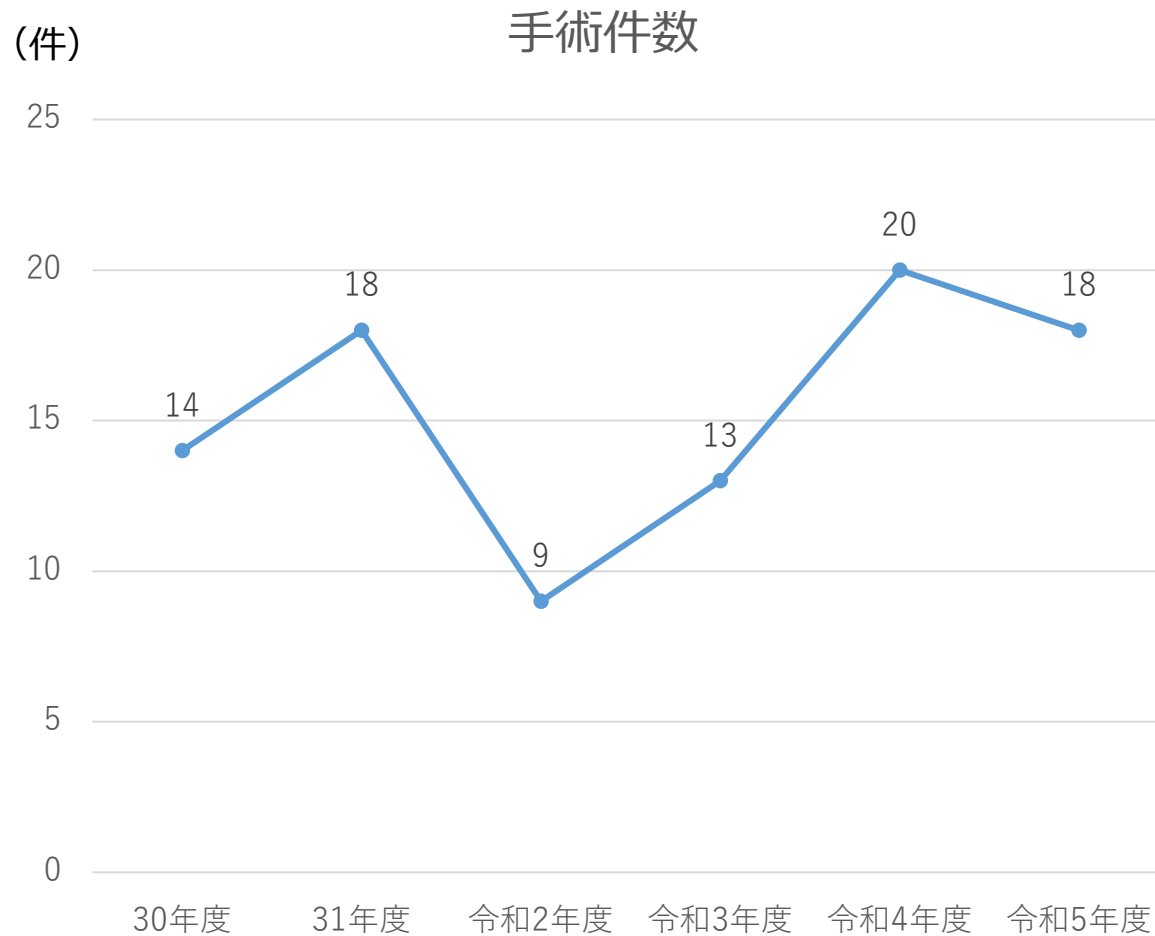
疾患分類別患者数

区分		H 3 0		R 元		R 2		R 3		R 4	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
脳疾患（全体）		514	61.4	505	61.6	541	62.0	444	59.4	441	58.5
	脳血管障害	462	55.2	458	55.9	485	55.6	397	53.1	407	54.0
	脳外傷・腫瘍	52	6.2	47	5.7	56	6.4	47	6.3	34	4.5
脊髄疾患		52	6.2	39	4.7	34	3.9	46	6.2	48	6.4
整形外科疾患		219	26.2	217	26.5	239	27.4	198	26.5	215	28.6
神経・筋疾患		14	1.7	18	2.2	14	1.6	15	2.0	9	1.2
リウマチ疾患		3	0.4	6	0.7	1	0.1	1	0.1	1	0.1
その他疾患		35	4.2	35	4.3	44	5.0	43	5.8	39	5.2
合計		837	100.0	820	100.0	873	100.0	747	100.0	753	100.0

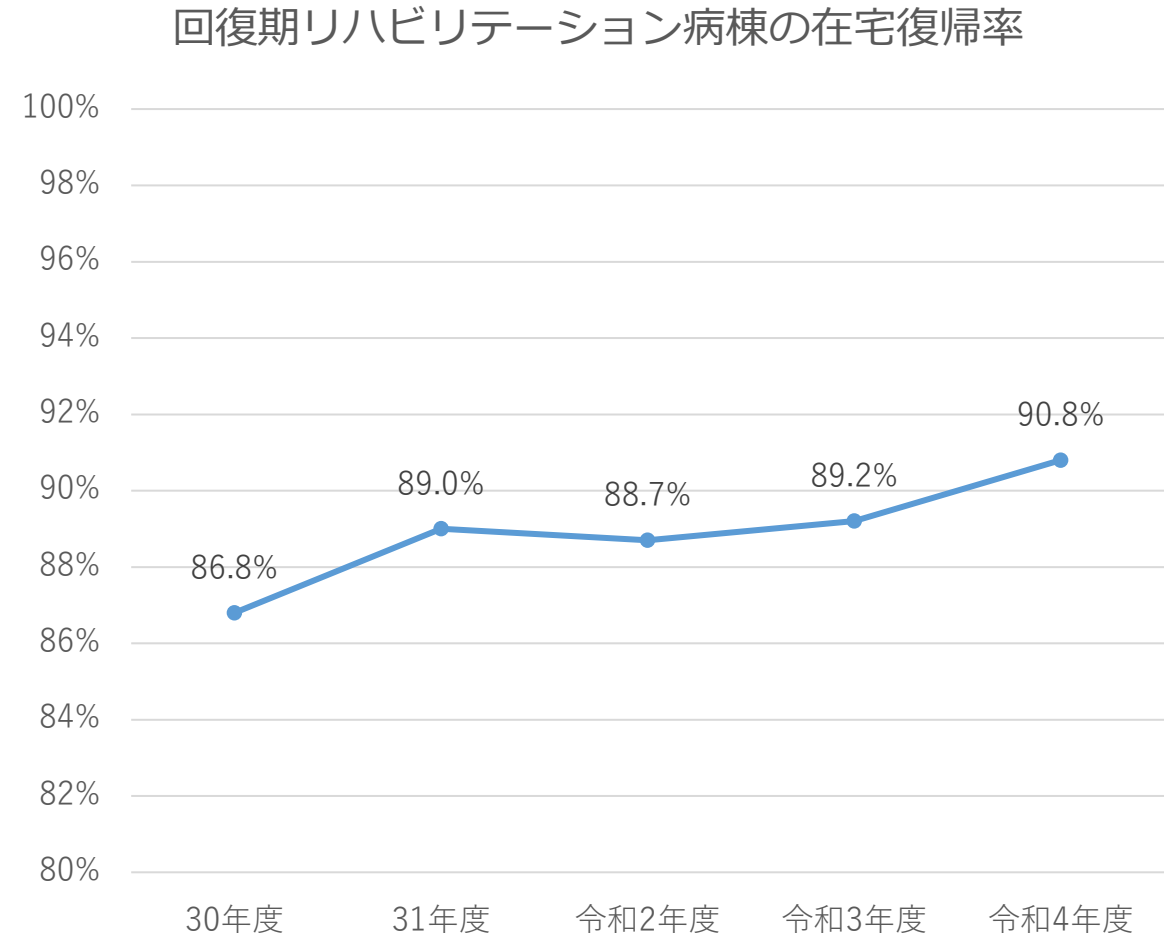


2-9 手術件数、在宅復帰率

- 手術室における手術件数は、年間20件以下で推移している。

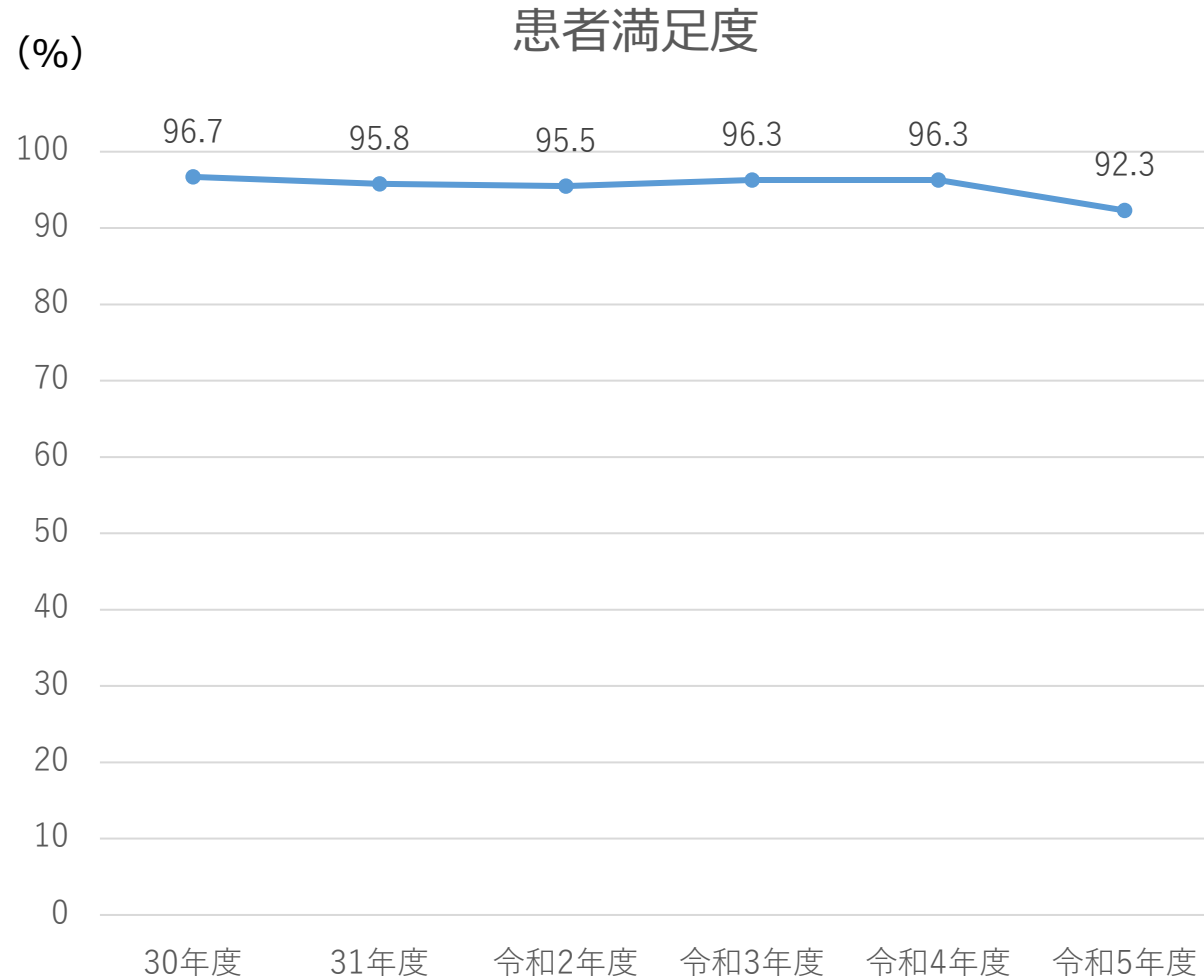


- 在宅復帰率は上昇傾向が続いており、令和4年度は90%を上回った。



2-10 患者満足度

患者満足度調査で「満足」「やや満足」と回答した割合は90%を超えて推移している。

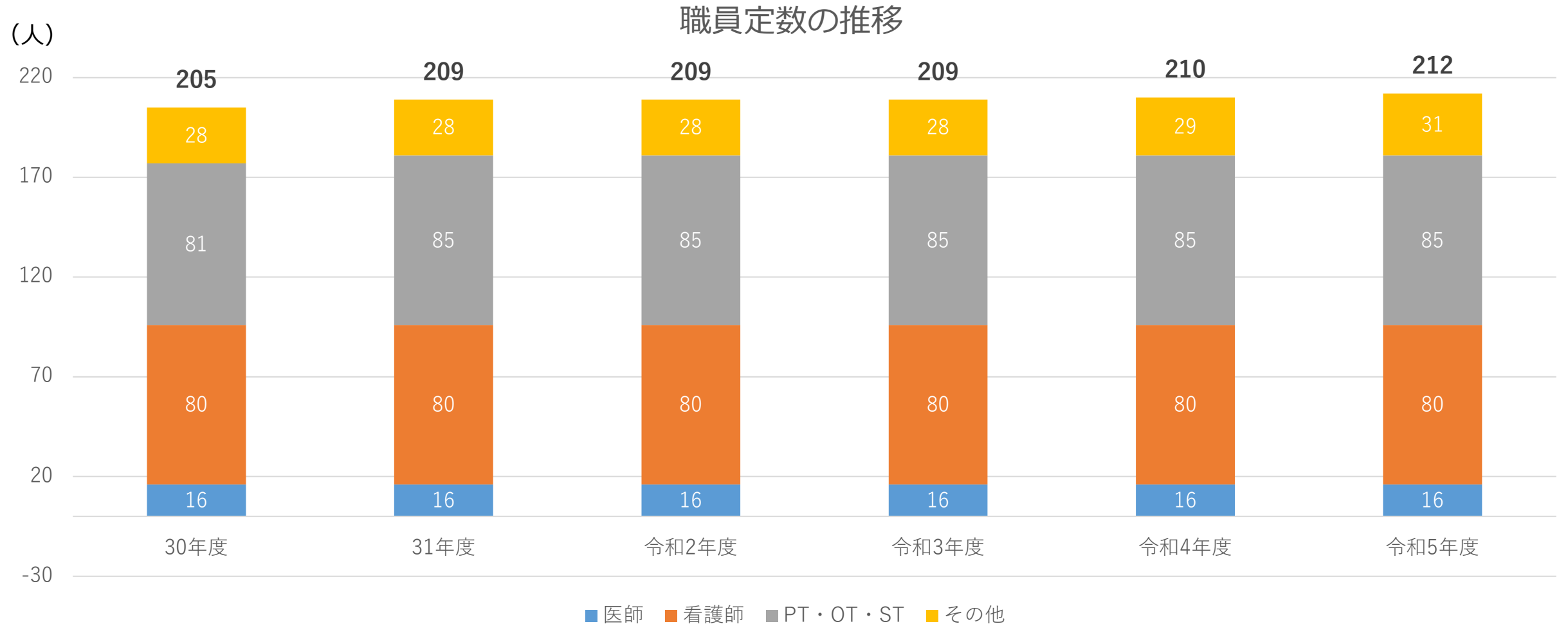


退院患者アンケートによる主な意見

- 職員が熱心で親身になってサポートしてくれた
- リハ職員のスキルが高い
- エレベーターの待ち時間が長く、混雑している
- トイレの数が少ない。男女別にしてほしい

2-11 職員定数

- 平成31年度以降、医師、看護師、PT・OT・STの職員定数は横ばいで推移している。



- 1 財務状況
- 2 主要経営指標
- 3 ベンチマーク分析
- 4 外部環境分析

3-1 ベンチマーク分析の概要

- 財務状況は指定管理による運営を行っている2つの病院との比較（一部、データ取得できていない事項あり）

	東京都リハビリテーション病院					A 病院					B 病院				
運営	指定管理					指定管理					指定管理				
病床	一般病床＋回復期リハビリテーション病床					回復期リハビリテーション病床					一般病床＋回復期リハビリテーション病床				
	H30	R元	R2	R3	R4	H30	R元	R2	R3	R4	H30	R元	R2	R3	R4
病床利用率	92.1%	94.2%	84.8%	80.6%	84.4%	94.9%	96.5%	80.0%	96.2%	99.4%		84.4%	77.9%	76.0%	80.8%
平均在院日数（日）	67.4	69.8	58.1	65.0	67.9	78.2	78.6	71.3	72.5	76.6		77.6	77.8	76.1	76.3
回りハ提供単位数	304,756	309,424	291,138	280,589	260,859						236,108	249,091	252,220	234,148	232,393
患者一人あたり	6.7	6.8	7.1	7.3	6.6	8.8	8.8	8.8	8.7	7.9	4.4	4.9	5.2	5.0	4.6
FIM実績指数	41.6	43.1	62.7	54.3	57.8	44.2	45.7	48.2	45.7	46.3					

3-2 100床当たり他施設との比較（令和4年度）

- ・ 医業収益は、A病院と比べて約3,800万円低く、B病院と比べて約1,200万円高くなっている。
- ・ 人件費は、A病院と比べて約400万円低く、B病院と比べて約1,800万円高くなっている。

（単位：千円）

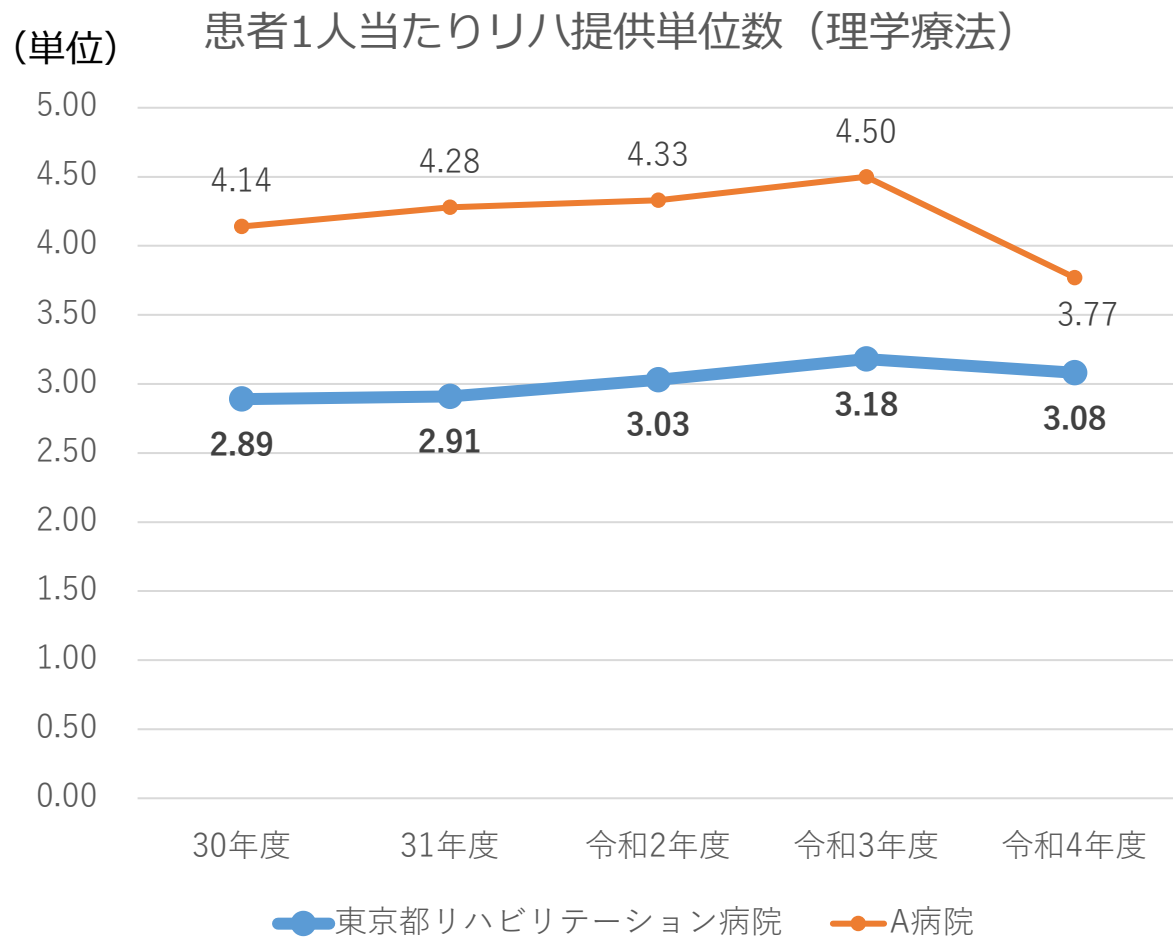
		東京都リハビリテーション病院 （100床月次）	A病院 （100床月次）	A病院との差	B病院 （100床月次）	B病院との差 との差
	入院収益	100,685	127,516	-26,831	75,691	24,994
	外来収益	4,832	7,716	-2,885	16,156	-11,324
	その他の収益	1,755	9,961	-8,206	3,760	-2,004
	医業収益	107,272	145,194	-37,922	95,606	11,665
	人件費	98,303	102,133	-3,830	80,767	17,536
	対医業収益比率	91.6%	70.3%	21.3	84.5%	7.1
	材料費	8,406	6,442	1,964	-	-
	対医業収益比率	7.8%	4.4%	3.4	-	-
	管理及び事業費	36,942	24,366	12,576	-	-
	対医業収益比率	34.4%	16.8%	17.6	-	-
	その他	1,733	2,422	-688	-	-
	医業費用	145,379	135,363	10,016	125,275	20,104
	医業収支	-38,108	9,831	-47,939	-29,669	-8,439
	医業収支比率	73.8%	107.3%	-33.5	76.3%	-2.5
	医業外収益	919	3,264	-2,345	1,379	-460
	医業外費用	16,244	794	15,450	354	15,890
総収支		-53,433	8,048	-61,481	-28,644	-24,789
総収支比率		66.9%	105.7%	-38.8	77.2%	10.3

※ A病院及びB病院の医業費用から減価償却費を控除して分析

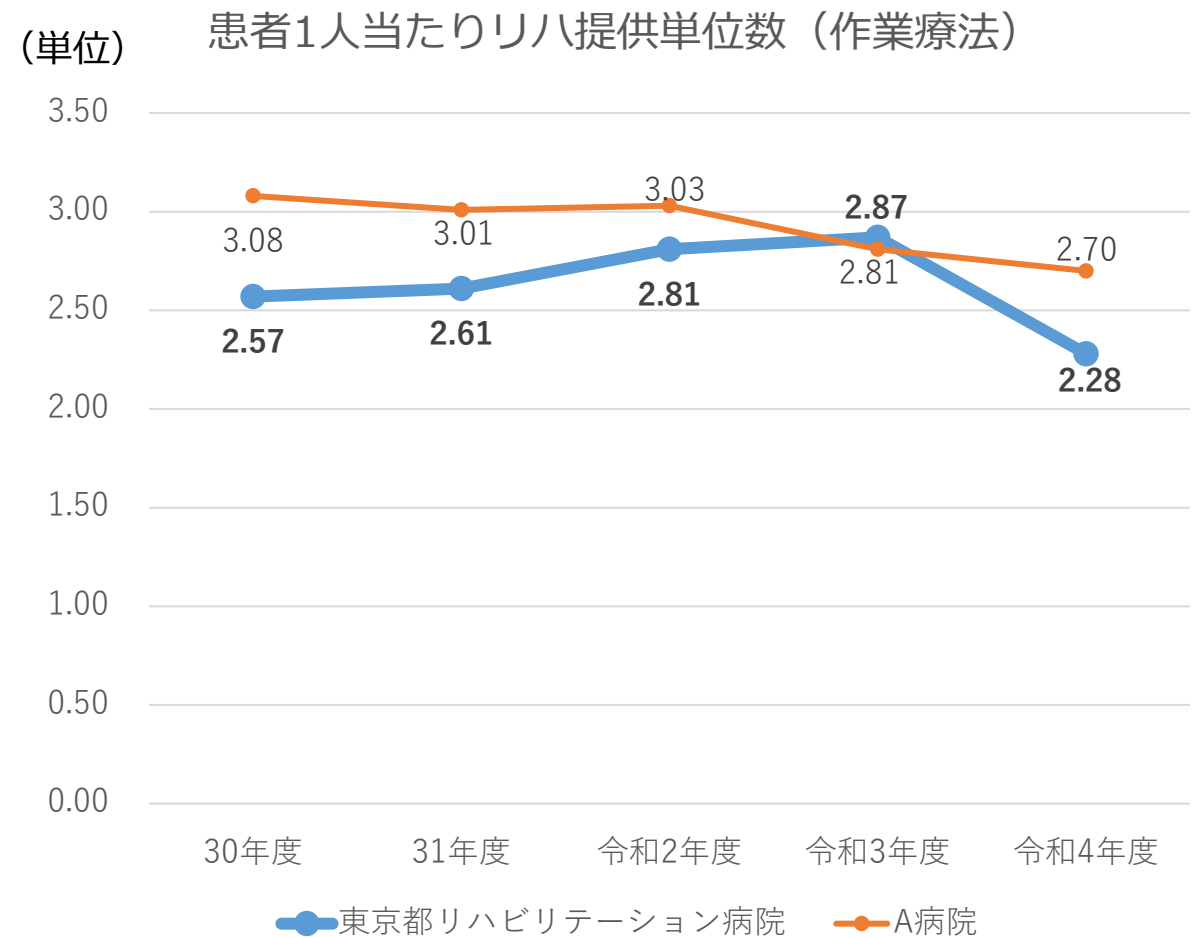
※ 「人件費」は「職員費」に「非常勤職員賃金」加算し、「管理及び事業費」は「非常勤職員賃金」を控除して分析

3-3 患者1人当たりリハ提供単位数の比較（職種別）①

• A病院と比較して概ね1単位少ない。

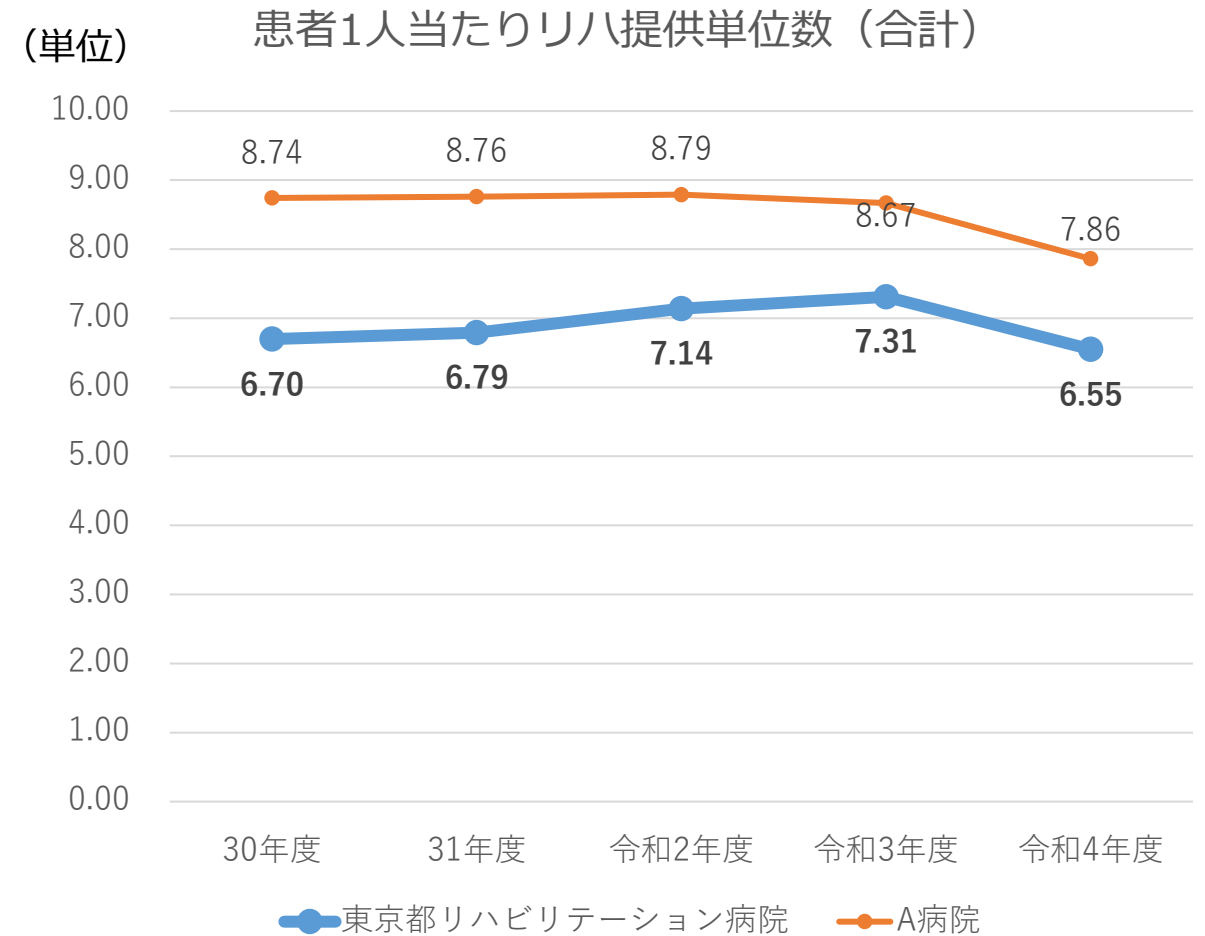
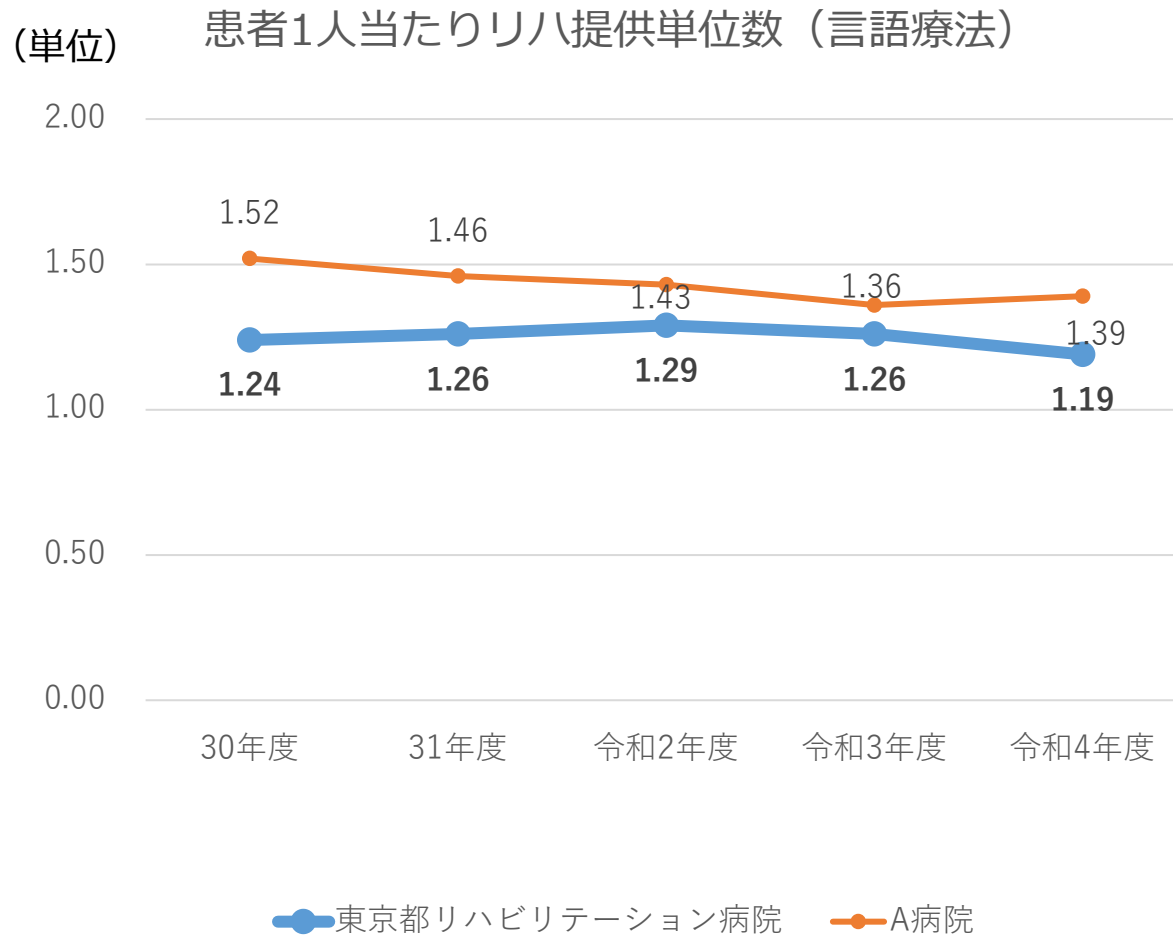


• A病院と比較して概ね0.5単位少ない。



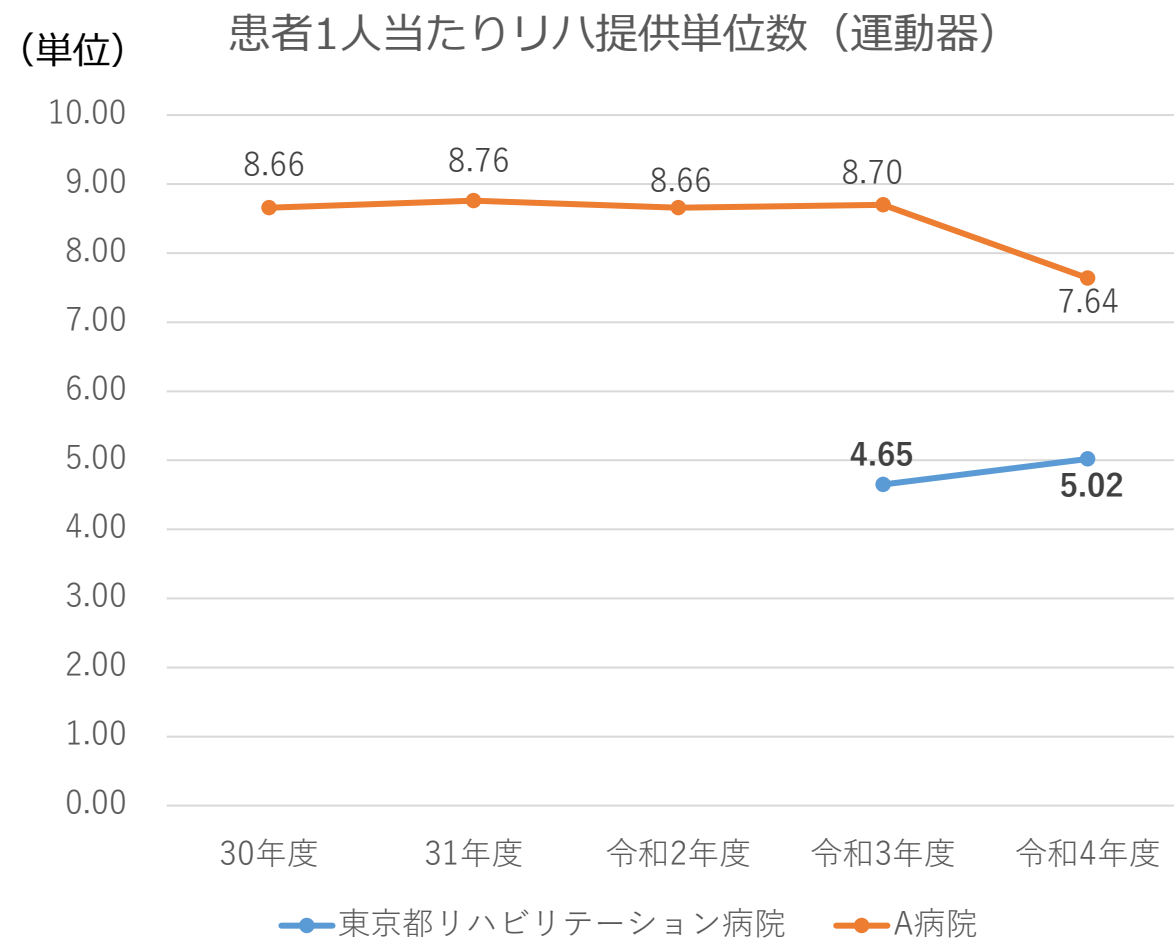
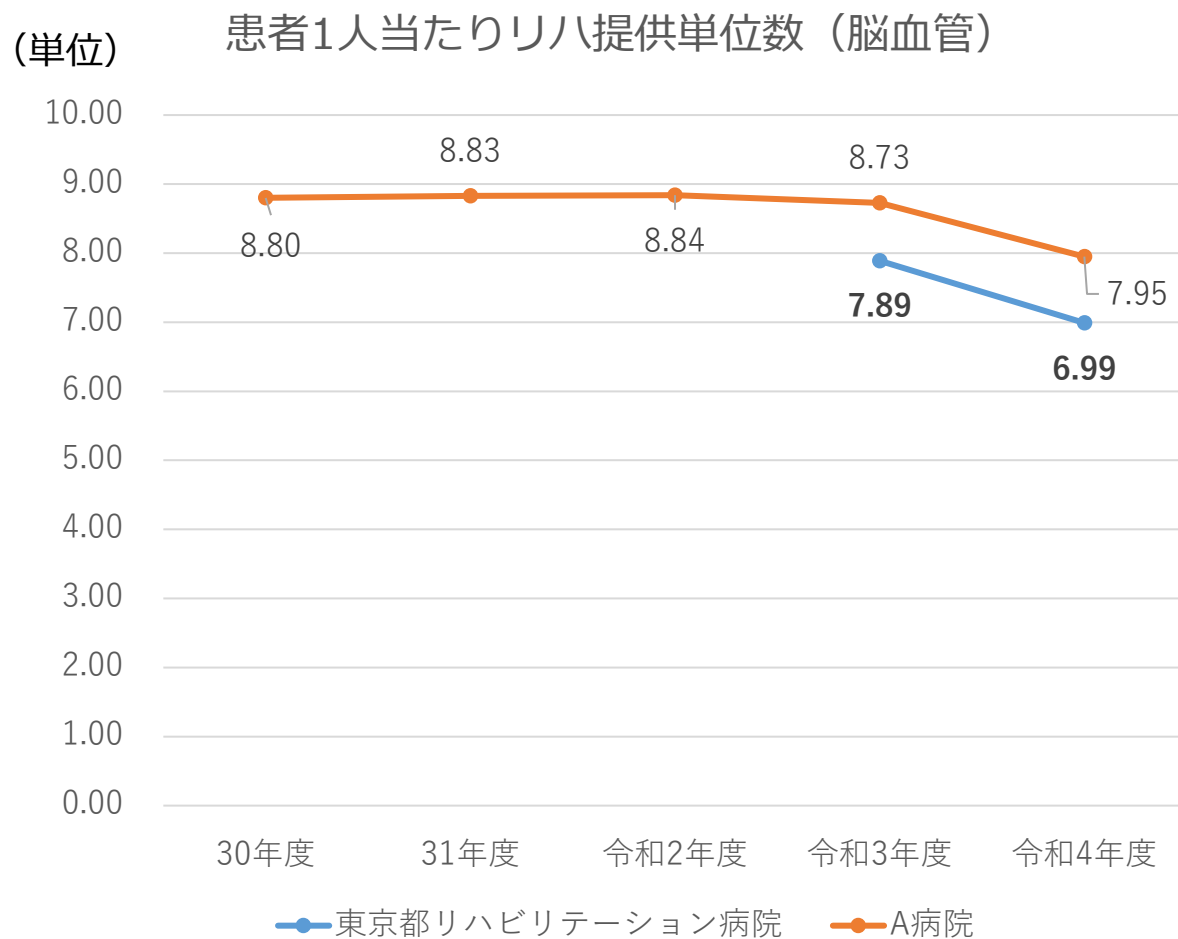
3-4 患者1人当たりリハ提供単位数の比較（職種別）②

- 都リハビリテーション病院は、令和4年度の提供単位数が微減となっている。
- 合計では、A病院と比較して1～2単位少ない。



3-5 患者1人当たりリハ提供単位数（疾患別）①

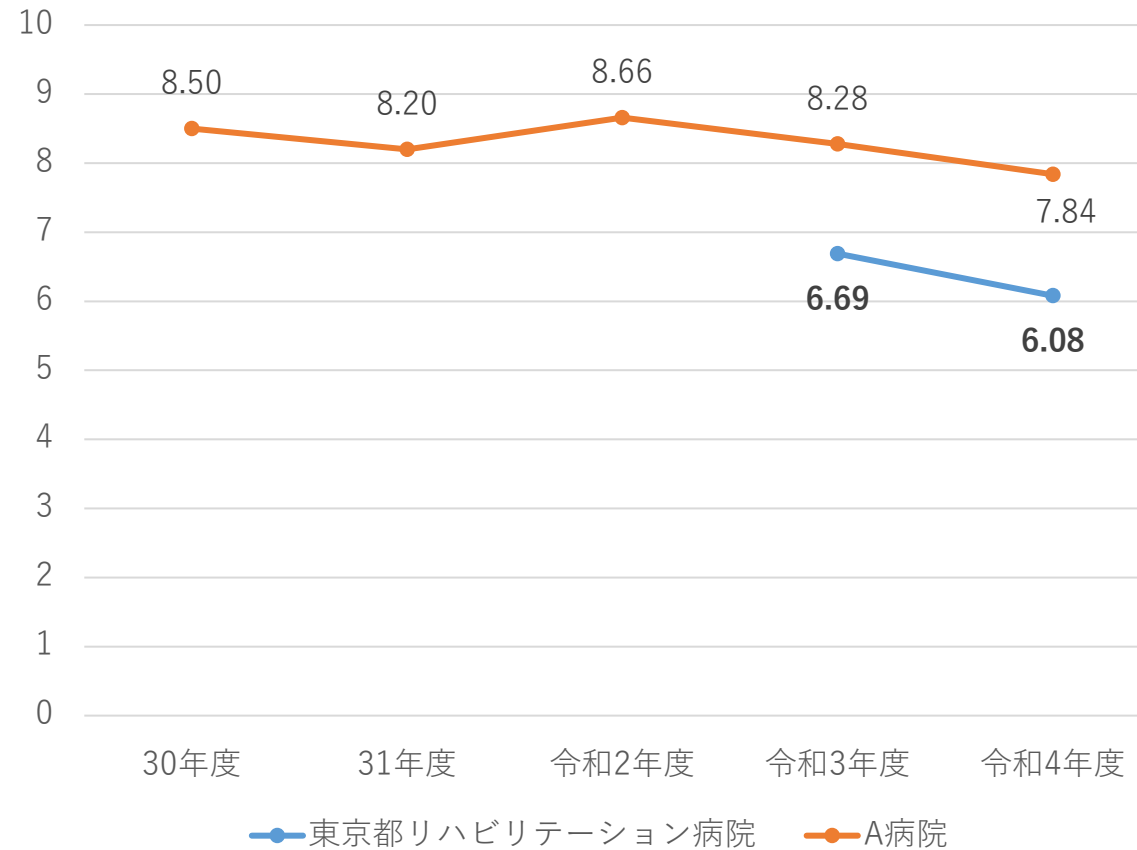
- 脳血管リハ、運動器リハは、他病院は8単位前後の単位数を提供している。
- 都リハビリテーション病院については、令和3年度・4年度のみだが脳血管が7単位、運動器が5単位前後の単位数を提供している。



3-6 患者1人当たりリハ提供単位数（疾患別）②

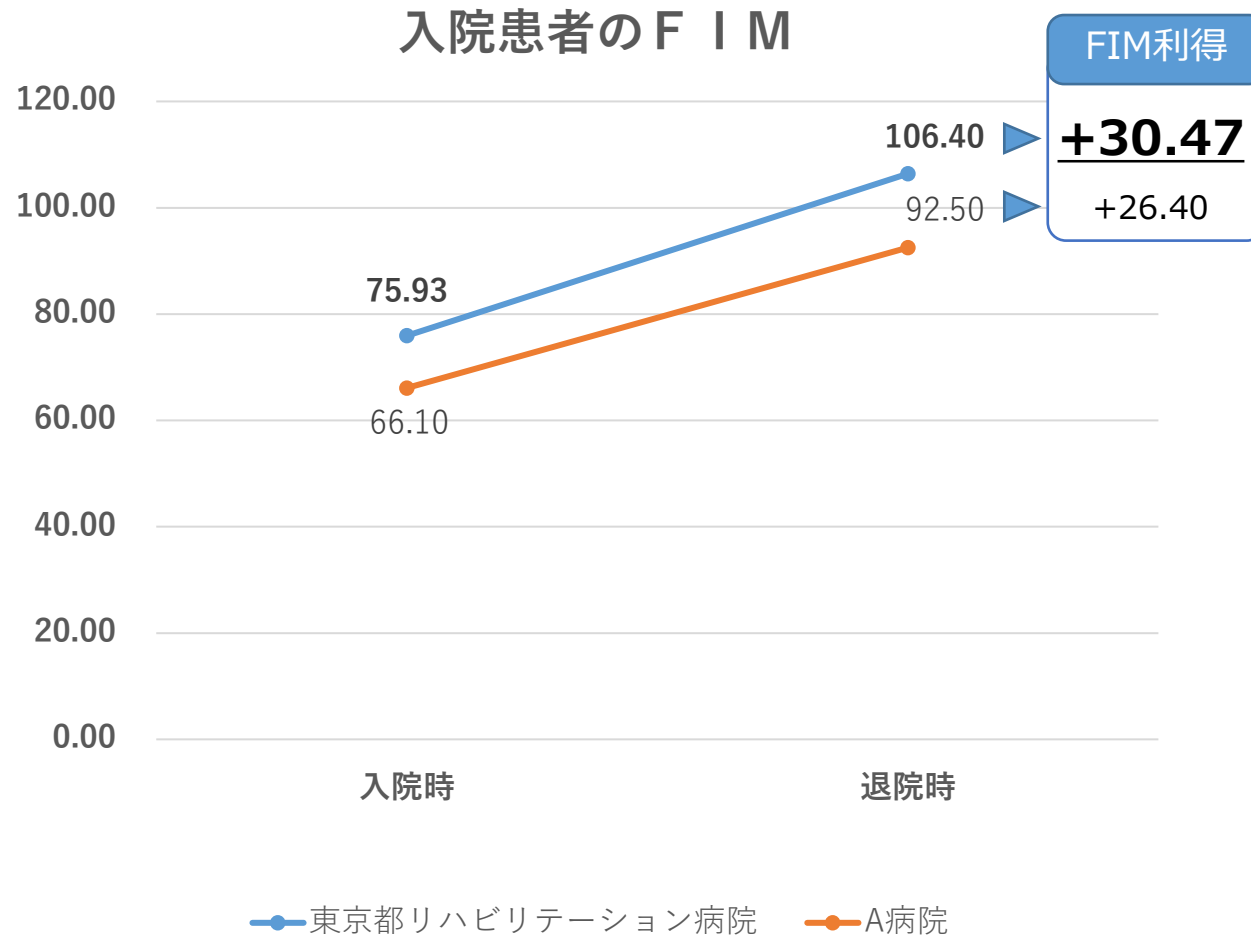
- ・ 廃用症候群リハは、A病院は8単位前後の単位数を提供している。
- ・ 都リハビリテーション病院については、令和3年度・4年度のみだが6単位の単位数を提供している。

(単位) 患者1人当たりリハ提供単位数（廃用症候群）



3-7 入院患者のF I M利得の比較

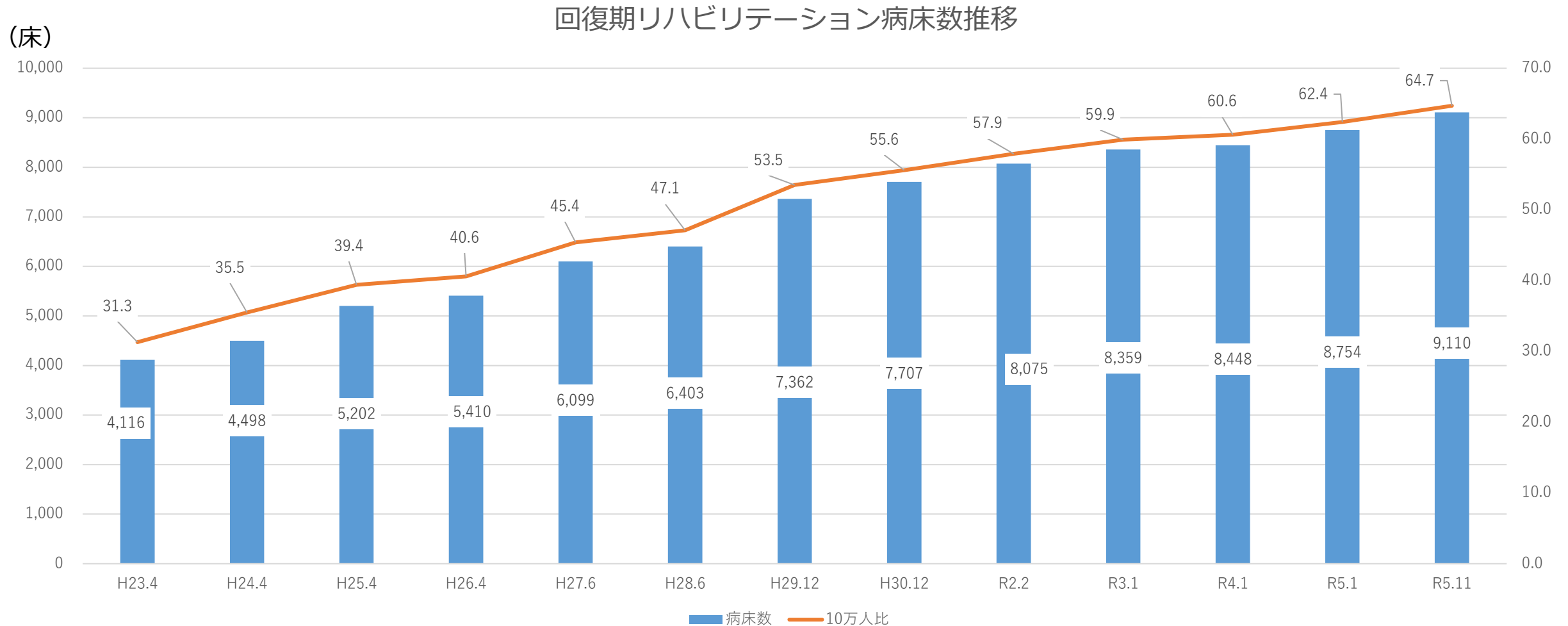
- 都リハビリテーション病院は、A病院と比べてFIMの利得が最も大きい。



- 1 財務状況
- 2 主要経営指標
- 3 ベンチマーク分析
- 4 外部環境分析

4-1 都内のリハビリテーション病床の状況

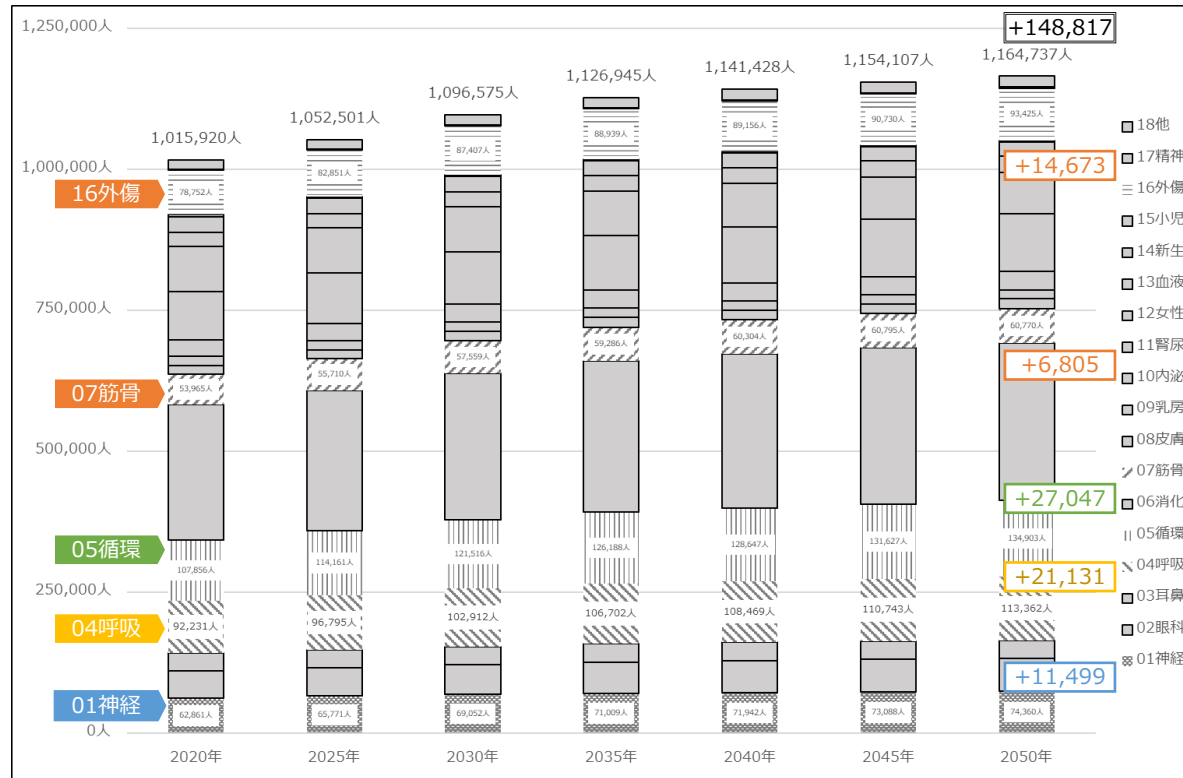
- 都内の回復期リハビリテーション病床数は、平成23年度4,116床が令和5年度には9,110床と約2.2倍と増加
- 人口10人当たりでは令和5年度64.7床となっており、全国平均人口10万人当たり75床程度と比較して低い



4-2 疾患別受療人数/受療割合の将来予測（都全体）

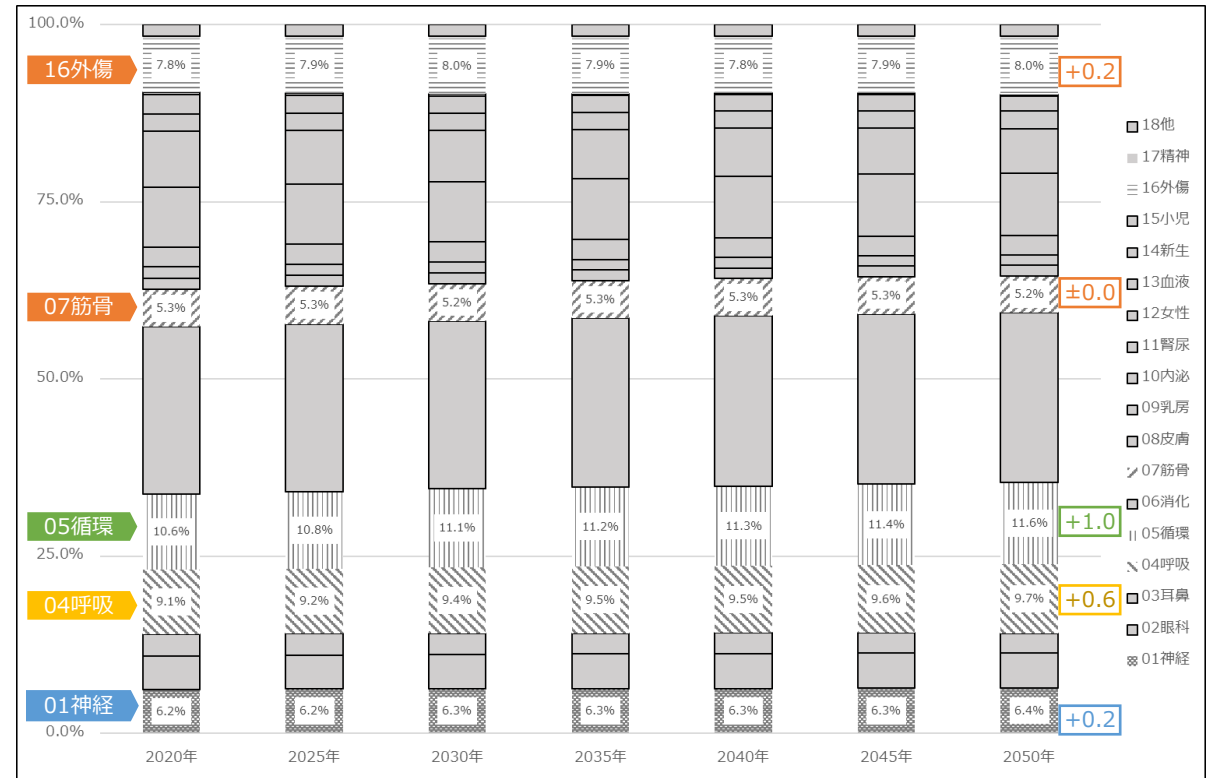
- 2020年から2050年にかけて「01神経」「04呼吸」「05循環」「07筋骨」「16外傷」の受療人数は増加

東京都12二次医療圏における疾患別受療人数の将来予測



- 2020年から2050年にかけて「01神経」「07筋骨」「16外傷」の受療割合は横ばいで推移
- 「04呼吸」「05循環」の受療割合は微増

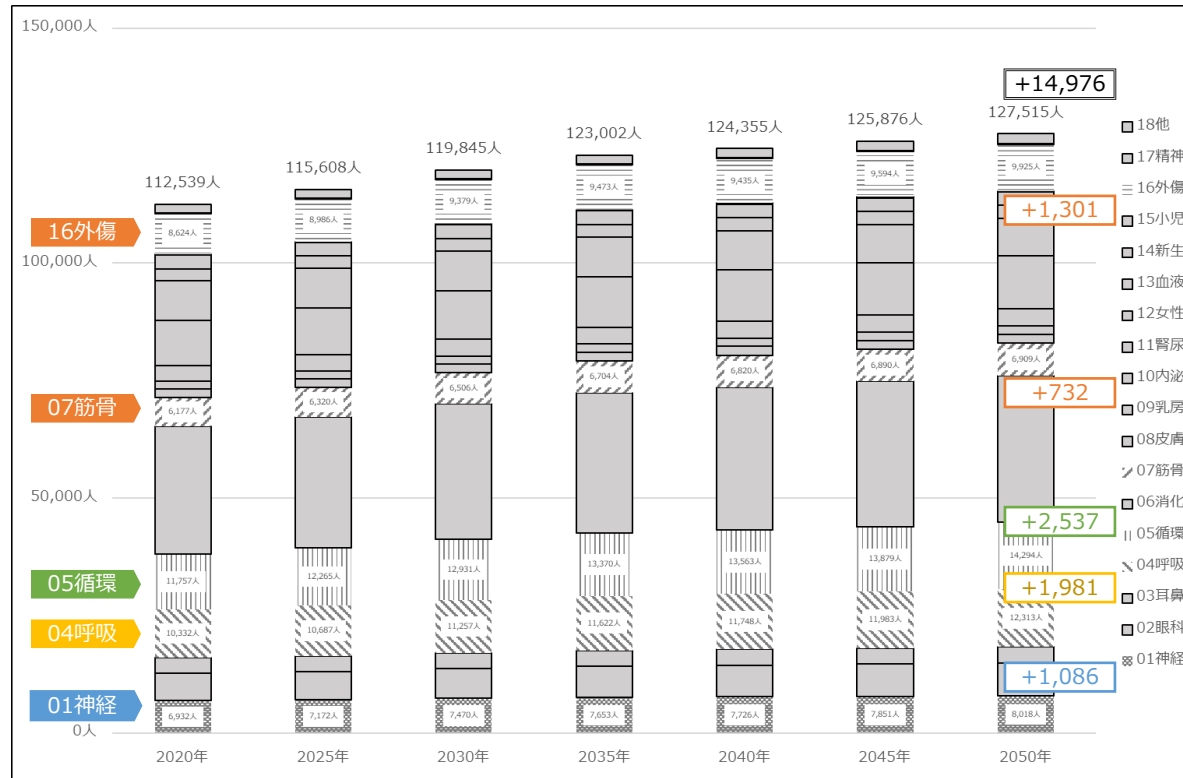
東京都12二次医療圏における疾患別受療割合の将来予測



4-3 疾患別受療人数/受療割合の将来予測（区東部）

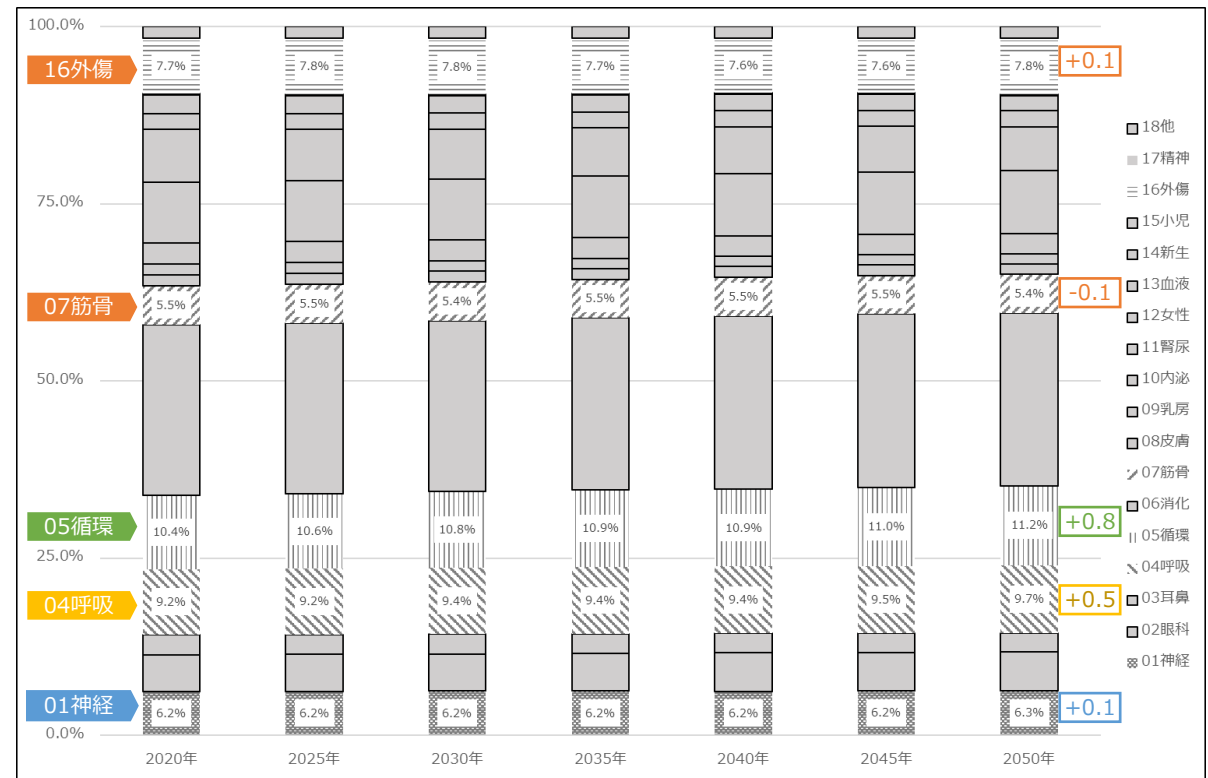
- 2020年から2050年にかけて「01神経」「04呼吸」「05循環」「07筋骨」「16外傷」の受療人数は増加

区東部における疾患別受療人数の将来予測



- 2020年から2050年にかけて「01神経」「07筋骨」「16外傷」の受療割合は横ばいで推移
- 「04呼吸」「05循環」の受療割合は微増

区東部における疾患別受療割合の将来予測



4-4 リハビリテーション病床の必要数（推計）

- 2020年から2040年にかけて都全域の人口は微減（▲0.5%）、区東部は微増（+0.3%）する。

人口	都全域	（参考）区東部
2020年人口	14,047,594人	1,494,327人
2040年人口推計	13,982,728人	1,499,562人

- 回復期リハビリテーション医療に該当すると考えられるMDC分類5つの受療人数の増加率は、都全域+15.9%、区東部+12.1%と人口増加率より高い。
- 受療人数の増加率から必要病床数は、都全域では1,315床、区東部では6床と推計された。

回復期リハビリテーション病床		都全域	（参考）区東部
「01神経」「04呼吸」「05循環」「07筋骨」「16外傷」の平均増加率	A	15.9%	12.1%
2023年度病床数	B	8,271床	961床
2023年度稼働率	C	82.2%	72.0%
2040年度必要病床数（2023年度稼働率の場合）	$D = B \times (1 + A)$	9,586床	1,077床
稼働率を都全域82.2%と設定した場合の差	$E = 0.822 - C$	0.0%	10.2%
2040年度必要病床数（都全域と同率の場合）	$F = D \times (1 - E)$	9,586床	967床
2040年人口推計	G	13,982,728人	1,499,562人
<参考>人口10万人対病床数	$H = F / G \times 100,000$	69床	65床